

ARS LONGA PROJECT ZINE vol.1



ZINE「ARS LONGA」発刊／ARS LONGA プロジェクト始動

Podcast「信州アーツカウンシル における放送センター」開設／ARS LONGA プロジェクトとは何か？

ZINE「ARS LONGA」発刊。これです

祝・創刊!ARS LONGA プロジェクトの一環の取組として、ZINEの発行をはじめます!信州アーツカウンシルの取組のなかで生まれてきた言葉や対話、講座などをテキスト化してアーカイブしていきながら、読者の皆さんと共有する紙メディアです。ARS LONGA プロジェクトの広報紙みたいなものになったり、独自コンテンツが生まれてくるといことも、あるかもしれません。

Podcast

「信州アーツカウンシルのにある放送センター」開設。



長野県の文化芸術活動の担い手を支援している信州アーツカウンシルがお届けするPodcast「信州アーツカウンシルのにある放送センター」では、長野県内の文化芸術のイベントや取組などについて、ゆるく、ながく発信していきます。「のにある放送センター」ではどんなことやするのか?、現時点で5つほどコーナーを用意しています。

もしもし信州アーツカウンシル



信州アーツカウンシルの日々の活動の報告、県内各地での助成団体の活動やイベントなどを情報共有します。

ARS LONGA STUDY



文化芸術をはじめとした多様な分野の担い手へのインタビューや講演などをお届けします。

気候とアートのダイアローグ



文化芸術の視点から気候変動や地球環境の課題を見つめ、ともに考える「Shinshu Arts-Climate Camp」の活動をお伝えします。

みんなの伝承文化ミーティング



伝統文化、お祭り・芸能のついでの話や担い手へのインタビューなどをお届けします。

はてしない雑談室



雑談は創造の母である、の謂れにならって、長い芸術に求められる果てしない雑談をお届けします。要するになんでもありの雑談です。



「ARS LONGAプロジェクト」始動。

ARS LONGAプロジェクトは、これまで信州アーツカウンシルの活動にかかわって生まれてきた言葉や表現、知識や情報、人のつながりを、紙やデジタルのアーカイブに束ね、学び合いの素材として次の展開につなげていく取り組みです。



WEBはこちら

「ARS LONGA プロジェクト」とは何か?

信州アーツカウンシル・ゼネラルコーディネーターの野村がパーソナリティをつとめた、のにある放送センターの「ARS LONGA STUDY」のコーナーの文字起こしです。

(野村)ARS LONGA STUDYのコーナーの第1回です。

このコーナーでは主に、文化芸術をはじめとした多様な分野の担い手へのインタビューや、信州アーツカウンシルの主催事業や助成事業で行われた講演・講座などの記録音声をお届けしていきたいと思っています。

例えば、長野県といっても広いですので、なかなか聞けない他の地域の文化団体やアーティストの活動のお話を、深掘りしてお伺いしたり、様々な分野で文化芸術に関わるような活動をしている方に、専門的な知見を教えていただいたり、そんな感じで、聞いてくださっている皆さん、文化芸術活動をしている皆さんの学びにつながるような内容をお届けできたらと思っています。

「ARS LONGA プロジェクト」とは何か?、というのが今回の話題です。

そもそこのPodcast「信州アーツカウンシルのにある放送センター」も、ARS LONGA プロジェクトの取組の一環でもあります。

既にご覧になった方もおられるかもしれませんが、プロジェクトのステイトメントがありますので、読んでみます。



続きはこちら

人の一生よりも長い 創造に向けて



アルス ロンガ プロジェクト
ARS LONGA PROJECT は、

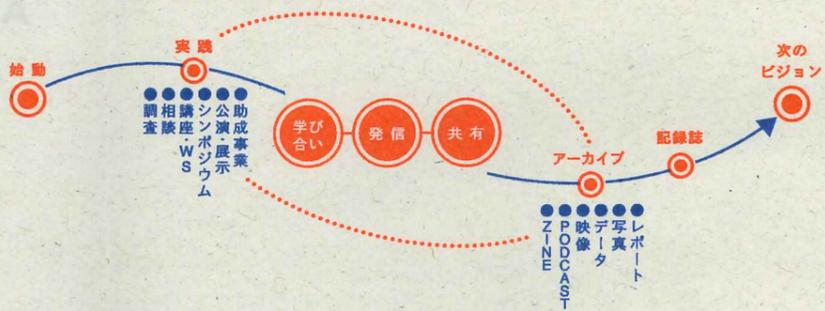
これまで信州アーツカウンシルの活動にかかわって生まれてきた
言葉や表現、知識や情報、人のつながりを、学び合いの素材として
次の展開につなげていく取り組みです。

地域に根付いた文化や、新たに芽吹いたアートの試み、議論の過程を、
紙やデジタルのアーカイブに束ねていきます。

多様な人々の実践がアーカイブになっていくプロセスのなかで、
人がつながり、さらなる実践を創る〜こうした循環を含んだ流れを「文化」と捉え、
信州・長野県で培われた文化環境を共有していきます。

Ars longa, vita brevis (芸術は長く、人生は短い)と、
古代ギリシアの医学の祖・ヒポクラテスは言いました。

人の一生よりも長い時間を意識した持続的な文化芸術を、
信州アーツカウンシルは探求しています。



長い芸術、野にあり。

信州アーツカウンシルが始まったのが2022年(令和4年)で、今ちょうど丸4年が経つところなんです。5年の節目に、アーカイブ、記録誌のようなものを作りたいな、ということがひとつあります。

令和4年のスタートからやってきたいろいろな活動があって、昨年度は例えば、「信州アーツカウンシル2024パレード」ともつくる「ムーブメント」と題して、3年間の成果を県民と共有する、という目的で県内を巡回するような企画もやりました。

そういった事業の中で、面白い内容のシンポジウムや議論の機会があって、記録はとってあるんですが、まだアーカイブとして興味がある人などに見ていただけのような状態にはなっていないものも多いですね。助成した団体の取組にもいろんな面白いものがありました。

そういった、信州アーツカウンシルの活動に付随して生まれている知見とかアイデア、コンテンツなどを、デジタルな形や、紙などの物理的な形で共有していくというのがこの取組です。

このPodcastもそうですし、これからよくよく作成していくZINEもそうですし、あるいは記録映像や写真、いろんな資料なども共有していけたらと思います。

加えて、これからもまた色々な講座やシンポジウムなどの活動が行われて、色々な活動やアートプロジェクトなども行われていくので、そういった「実践」と「アーカイブ」が循環して行われていく、信州アーツカウンシルの活動にかかわって知識や情報が生まれて、次の活動につなげていく、人も繋がっていく。

さらに、そこから「じゃあこれから信州アーツカウンシルや長野県の文化芸術はどんな未来をイメージすればいいのか」というビジョンをとらえていく、そういうことに繋がっていく営みになるという、ということから始めたいのが、この「ARS LONGAプロジェクト」ということになります。

今の話を聞いて、なんとなく分かったけど、実のところよくわからない、という感じなんじゃないかと思うんですが、まあ、具体的にやってみていくなかで形がみえてきて、伝わっていくんじゃないかと思えます。気長に構えて

いただけるとありがたいです。

ひとつわかりやすいのは、たぶん、来年度末、信州アーツカウンシルがスタートから満5年を迎えた節目に、何かの形の記録誌をまとめます。たぶんそれが形になったら、こういうことか、って感じになってるんじゃないかと思えます。

次に、プロジェクト名にしている「ARS LONGA」というキーワードに込めた思いみたいなのを話したいと思えます。

信州アーツカウンシルの活動を始めて1年経ったくらいの時期から、「信州アーツクライメート・キャンプ」という事業を始めまして、「気候変動とアート」という切り口で、専門の方からお話を聞いたり、すでに県内で気候変動に対応する活動をしている方と知り合ったりするような活動を、信州大学人文学部と連携しながら行ってきました。

これに取り組むなかで、今、この時代、「この社会において、「人の一生よりも長い時間」をイメージして文化や芸術に取り組むことが、とても大事なのではないかと考えるようになってきました。

ある意味、何も考えずに流されていると、いまの世の中って、すごく近視眼的になる、というか、「いまここで成り立てばあとはどうでもよい」というような利己的な姿勢で生きて、アート活動も行うことになりそうだと感じます。

また、東京とか大都市ではなく、この信州・長野県から、自然に囲まれて、自然に振り回されて暮らしている信州・長野県の個性を土台にして、世界に向けてアートを発信していく、と考えたときに「持続可能性」とか「循環型の暮らし」とか「人の一生よりも長い時間」というのを提案するというのがいいのではないかと思えました。

その時に、古代ギリシアの医学の祖と言われているヒポクラテスの「Ars longa, vita brevis (芸術は長く、人生は短い)」という言葉がふっと思いついて、ちよつとたぶんこの言葉の本来の意

味とは少しズレるんだけど、「人の一生よりも長い芸術」＝「ARS LONGA」ということではないかと思ったんですね。

ちなみにARS LONGAを単純に置き換えると「長い芸術」ということになりませんが、そういえばわれわれ長野県の「長野」って「長い」って字が入ってるし、なんか関連も見えやすいね、と。

さらに「ここから語呂合わせというか、言葉遊びみたいでもあるんですけども。

長野県で文化芸術をやっていると、時々、というか、よく、野生的というか、野良の生き物みたいな、アナキーな野精神の人と出会うんです。

長野県で、わりと在野のマイノリティ的な。それで、「野」という言葉に注目していたら、柳田國男が始めた民俗学が「野の学問」と呼ばれているとか、千利休が「花は野にあるように」という言葉を残していたとか、長野の「野」、「野」という文字や言葉の奥にあるニュアンス、意味合いに、信州アーツカウンシルで大事にしている価値観が表れているような感じもして、それで、

長い芸術、野にあり。
ということなんですけれども。

信州アーツカウンシルは、地域の文化芸術の担い手を支援している、といつも言っていて、文化会館とか美術館とかの館の外の、地域で活動している人を応援している、と説明しているんですが、それは言い換えれば、「野」にある芸術、「野」に生きるアーティストを後押ししている、ということでもあると思ったわけです。

語呂合わせなんですけど、けっこう本質を突いているんじゃないかと思つて、気に入っています。

ARS LONGAプロジェクト、これからどうぞご縁に、よろしくお願ひします。

今日は以上です。ありがとうございました。

主催



信州アーツカウンシル

一般財団法人長野県文化振興事業団

長野県



令和7年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業



ARS LONGA PROJECT

ARS LONGA プロジェクトは、信州アーツカウンシルの取り組みです。

<https://shinshu-artsCouncil.jp/arslonga>



発行日 2026.3.15

発行 | 信州アーツカウンシル (一般財団法人長野県文化振興事業団 アーツカウンシル推進局)

デザイン | 北林南 (ZINE)、五加意匠 (フライヤー/ロゴ) 協力 | 厚の角印刷所